

ニンカン・ネット通信

ニンカン・ネット
Vol. 10
2011. 3. 12

【発行】ニンカン・ネット 〒466-0833 名古屋市昭和区隼人町19 南山短期大学内 Fax (052) 836-6543 (南翔会事務局)



『さようなら いりなか』

2011年3月末をもって南山短期大学はなくなり、
4月からは南山大学短期大学部英語科として、
名古屋キャンパスに移ります。

(人間関係科は2000年に南山大学人文学部心理人間学科に移行)

私達にとってはたった2年間の学生生活でしたが、
各々思い出がたくさんつまった「いりなか」です。

母校がなくなってしまうのは、淋しいことですが、
南短卒業生の「縦と横」は健在です。ニンカン・ネットは、
それをつないでいければと思います。

交差点から眺めると、懐かしい校舎と教会が見えます。
感謝の気持ちをこめて「さようなら いりなか」



「第1回ニンカン読書会」

【ゲスト】伊藤雅子先生



今回はミヒヤエル・エンデ著書の「モモ」を課題本として取り上げました。代表の挨拶の後、この本を取り上げた理由として、時間と心がテーマの「モモ」がニンカン生の読書会としてふさわしいと思ったことを司会者が話し、その後各自で「モモ」を読んで心に残った文や気に入ったフレーズ、感想を発表しました。

竹内敏晴先生の授業で「モモ」をお芝居として取り上げた19期生の参加もあり、なかなかの盛り上がりでした。同じ場面で感動した人や、自分と異なる感想を持つ人の話を聞きながら、「時間」について皆でいろいろな話が出来ました。また、「時間どろぼうの男達の色が何故一様に灰



6月19日(土)、ベタニアにおいて伊藤雅子先生をお招きしてニンカン・ネットサロン企画「第1回ニンカン読書会」を開きました。

前日の大雨で、当日のお天気が心配されましたが、まずまずのお天気でした。

当日の様子と参加者の振り返りをまとめましたのでご紹介します。



色なのか」という事も話し合いました。

会の締めくくりとして伊藤雅子先生にお言葉をお願いしました。先生の「一番クリエイティブな活動をしている時が一番心が動いている時です」という言葉が、皆の心に深く残りました。

「モモ」を語りたくて、「モモ」だから参加したという、とても有意義で満足感を得た「第1回読書会」でした。

参加できる人達で雅子先生を囲んでの食事会もあり、「第2回読書会」もぜひやりたいという声の中幕を閉じました。

(6期 織田 厚子)

参加者の『こえ』

- ・ご出席の皆さんの有意義な発言に声も出ませんでした。続けてくださって心から感謝します。今は「古い」ということに関心があります。(先生)
- ・名前(タイトル)だけしか知らなかった本を読む良い機会になりました。読み方により、深いテーマが続々と…あり。話し合いにも熱が入り、なかなか活発な会になって楽しかった。次回も楽しみにしております。(1期)
- ・幅広い世代の同窓生の方々とお話ができ、皆さんの豊かな感性に触れることができました。土曜の午後のゆるやかな時間を、自分と違う感じ方にはっとさせられたり、大いに共感したり…とても「楽しく」過ごさせていただきました。ありがとうございました。(11期)
- ・「モモ」のタイトルを見て「ああ懐かしい!!」と飛びつきました。竹内先生の授業で「モモ」のお芝居をやり、ビビガールと灰色の男の役をやりました。その当時に「モモ」を読んだ時と、社会人となり2児の親となり子育てに専念している今、読んだ時の感想は違うなと思いました。学生の時は、自分の思うがまま熱中して、時間が過ぎるのがあっという間であったり、ゆったりとしたりする時間を楽しんでいました。社会人になってからは、会社生活で時間に追

われながら仕事をしていたり、時間に流されていたり、その時その時はきっと楽しみながらだったのでしょうが、記憶に残らない事もあったり。そして結婚して子供を授かり子育てに専念する時間は、無我夢中で過ごしてきましたが、子供と一緒に過ごせる時間を楽しもうという気持ちになり充実しています。そんな事をゆっくりふりかえることができました。「モモ」とも好きな本です。(19期)

・久々に語った気がしました。密度濃い(ここを評価している時点で、時間に厳しいのかも)というか、どっぷり浸ったというか…。最近では心の奥深くまで傾けて聞くということをしていなかったのも、ニンカン時代は毎日こういうことをしていたんだなあと思えました。他の人が取り上げている部分を聞いて、やはり同じ所が気になったんだなあと思えました。自分が人生で一番影響を受けた本なので、それについて色々話せて、他の方の受け取り方や感じたことなども聞けてよかったです。(21期)

・人数はすくなくはなかったけれど、「モモ」に対する熱い思いを持った方が集まってみえたので、とても内容の濃い、有意義なサロンになったと思います。読書は個人的な作業ですが、誰かと共有できる喜びがありました。(16期)

秋の三二講座

2010年11月23日(火)

No.11教室

「言葉の使い方」

一具体的に、決めつけないで—

【講師】星野欣生先生



昨年、好評のなか星野先生の10回シリーズ講座が終了しましたが、要望が多いので今回あらためてお願いしました。予想通り、28名の参加という盛況ぶり。今回、グループワークはありませんでしたが、エクササイズを交えながら具体的に言葉の使い方を学びました。

《言葉の使い方とミスコミュケーション》

お話「言葉が生む誤解」

私たちは、口でものを言い、耳で聞き、同時に目で見、人とコミュニケーションをはかっています。今回は特にその中で「言葉」というものに焦点を当ててみようと思います。

日々の中で、ある事柄について、思いこみで話していることはよくあるのではないのでしょうか。耳には同じ言葉として届いていても、受け取る側には中身が違ってしまいうこともあると思います。

エクササイズ「抽象のレベル」 3つのエクササイズをしました。

抽象のレベルが低いということは、より具体的であるということです。

- 1 5つの文章を、抽象度が低いもの（より具体的な）から順に並び変える。
- 2 ある文章を、次第に抽象のレベルが高くなるように書き換えてみる。
- 3 ある文章を、次第に抽象のレベルが低くなるように書き換えてみる。

お話「抽象のはしご」

相手に分かってもらうため、誤解を招かないためには、言葉の抽象のレベルを下げる必要があるのです。アメリカの言語学者S・I・ハヤカワ氏は「一般意味論」の中で「抽象のはしご」という言葉を使って、このことを説明しています。相手に何かを伝える場合、「はしご」の下の方で、つまり抽象度のより低い（具体的な）レベルで話すことを意識する必要があります。

エクササイズ「新聞の見出し」

ある事件の概要を聞き、新聞の見出し4種類の中から、どれが事実を述べているか見極めるエクササイズ。

エクササイズ「言葉の3つのレベル」

事実・推論・断定という言葉の3つの種類を見極める。また、事実から推論してみる・推論から事実を考えてみる・断定から事実を考えてみる。

お話「言葉の3つのレベル」

言葉には、事実・推論・断定という3つのレベルがあります。事実＝報告、推論＝意見、断定＝判断・評価です。日頃、私たちは自分で推論してしまったことや、判断し断定したことを、あたかもそれが事実のように言ってしまうがちです。そこから誤解が生じたりするのです。話をする時、この3つのレベルを意識し、分けて伝えると誤解は生じないでしょう。また人の話を聞く時も、今相手は事実・推論・断定、3つのレベルのどこで話をしているのか、少し考えてみるのが大切です。その時に「なぜ？」と問うてみると事実が見えてくるところもあります。

《話しかけ方のコツ》

お話「ほめ方と叱り方」「声かけのチャンスと方法」

ほめることは惜しまず、なるべくすぐに具体的なデータを取り上げてほめる。また、結果ができていなくてもプロセスをほめることも必要です。

また前提として叱ることは必要ですが、事が起こったらすぐに叱る。一般論（評論家的）ではなく、I（私）メッセージとして伝えるべきです。「ことを叱って、人を叱らず」相手を尊重していることを、言葉や態度で示すことも大切です。

声かけは、ごく自然に、WhyよりもHowで、その時の状態に目を向けて話しかけるようにする。座り方など物理的な条件にも配慮し、沈黙にも意味があるので、待つこと、間をとることも必要です。

最後は質疑応答の時間を設け、具体的な話もあり、充実した講座でした。
(5期 林 幸子)



参加者の『ふりかえり』

・ 久しぶりにイロイロ考えさせられました。特に日常での会社生活での上司・同僚との関わりの中で自分が使っているコトバはほとんど断定なのだろうと。主観を入れて伝えていることに気づかされました。少し意識してことばを大切にしていきたいと思います。時々こうして振り返る場をもつことは大切ですネ！あっという間でしたが有意義な時間でした。
(21期)

・ いつも講座のお知らせを見ても行きたいけれど土曜日は子供のおけいこがあって参加できないままでしたが、今回祭日でようやく参加することができました。講座ということで先生のお話を聞いているだけと思っていたらエクササイズやこのふりかえりもあり、ものすごくひさびさに人関の授業を味わった感じです。後半はいろいろとノートをとることもでき、かたまっていた頭が少しほぐれた気がします。日頃実母との関係や子育ての中で、言葉のやりとりの難しさを実感しているの、今日のお話はとてもよい勉強になりました。
(11期)

ニンカン・カフェ

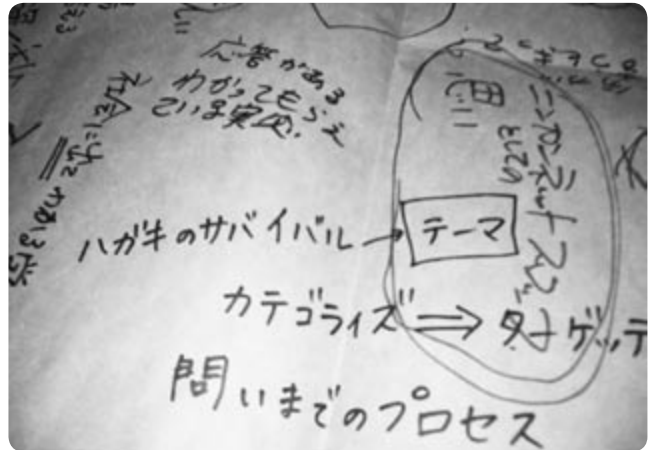
2010年12月5日(土) No.21教室

卒業生同士が集い、期を超えた交流ができればいいなあ、ということで昨年から行っているサロンですが、最後はNo.21教室で行おうということでの企画は「ニンカン・カフェ」。

ここ最近、主に大学や企業などで導入されつつあるワールド・カフェという対話法。あらかじめ用意されたテーマについて4人程度のグループになり、30分程度の意見交換を行ないます。全員が必ず発言をしなければならないというものではなく、メンバーの発言から着想を得るだけでもOK。その際は、用意されている模造紙にメモ程度に書いていきます。テーマはあくまでも話題の提供に過ぎず、グループに結論を求められるわけでもない。そういった意味では初対面同士でも参加しやすく、自由な雰囲気での対話に参加できます。

今回はニンカン生向けということで、「ニンカンでの思い出」、「なぜ今ここに? (参加動機など)」、「あなたが人間関係づくりで大切にしているものは?」といったテーマを用意していました。ただ、残念ながら参加者はおひとりのみでしたので、急遽テーマは変更。今後のニンカン・ネットを考える意味で「なぜニンカン・ネットスタッフをやっているのか」、「ネットで何をやりたいのか。」といった活動に対する思いの見直し、活動の課題等が実際のテーマになりました。

今回は、教育ファシリテーション専攻の元院生で、現在は奈良を中心にワールド・カフェのイベント、また人間関係トレーニングの活動を精力的に行っている山岸裕さんを迎え、彼のファシリテーションと、スタッフではない卒業生からの目線を交えての対話となりました。



◆「なぜスタッフをやっているのか?」

「いつまでもニンカンやろうよ!」というキーワードを基に発足したニンカン・ネット。ニンカンでの2年間の学びを、卒業後も継続していくための支援・促進を目的に、活動が発足したわけですが、ここまで続けてこられたのはひとくちに「居心地の良さ」。

講座の企画・運営や助成の手続き、通信の発行、はたまた交流サロンの企画といった一連の活動の達成という明確な目的意識を持つ喜びもありますが、思っている意見を伝え合い、それぞれの力を適材適所に出し合い、期を超えたメンバー同士で進めていくといったプロセスそのものが、活動のモチベーションの源となっているようです。

◆「ニンカン・ネットでやりたいことはなにか?」

これまでどおり、先生をお呼びしての講座や通信発行はもちろんですが、いちばんの願いはニンカン・ネットの活動を卒業生にもっと浸透させたいということ。私たちスタッフが思っている活動の「心地良さ」を卒業生同士で共有していけたらいいなあと思っています。

そのために今後力を入れたいことは、卒業生が気楽に参加できるようなサロンイベントの企画。流行に見合った多くの人が興味を持っているようなことや、生活の中で役立つような実用的こと…そういった内容の企画だけではなく、日常の中でふと立ち止まり、自分自身を今一度見つめ直すこと、また学生時代を一瞬でも思い起こすようなこと…そんなきっかけを卒業生の皆さんに提供できるような場をつくってみたいです。

毎月1回、定例会を重ねながらも、メンバーのパーソナルな思いを伝え合うといったことがこれまでになかったので、とても新鮮な気持ちで臨む対話になりました。日常生活では、ついつい目先のことばかり話題にしてしまう傾向がありますが、少し真面目なテーマを、気楽に取り組めるような対話の場があれば、自分自身を見直しつつ、相手との関係がより深まるのではないのでしょうか?

今後の企画にご期待ください!! (16期 杉田 純子)

ニンカン・ネット奨学助成活動 ～学ぶあなたを応援します～

「ニンカン・ネット」では、旧南山短期大学人間関係科の核となっている「体験学習」及びその応用を継続学習・研究・普及しようとする人間関係科卒業生を援助します。

《奨学コース》 講座受講料の50%（限度額5万円）、大学等への入学・編入費用のうち5万円を補助します。

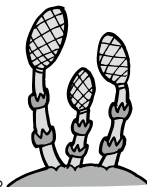
◆申し込み受付期間 第14回（春期4月～8月） 2011年3月末受付締め切り
（春期・秋期の年二回） 第15回（秋期9月～3月） 2011年8月末受付締め切り

《一般助成コース》 人間関係科卒業生を対象にした同期会一回につき1万円を補助します。

こちらの申請は随時受け付けています。

☆申し込み方法、選考方法など詳しくはお問い合わせください。またHPでも詳細をご覧になれます。

問い合わせ先 E-mail:jyosei3@ninkan-net.jp（HP内に問い合わせ用フォームがあります。）



「ニンカン・ネット」奨学助成を受けられた方々

23期 沼 優子

明星大学 通信教育部入学

この度、ニンカン・ネットから助成金を頂きました、23期沼（旧姓大原）優子（当時はまると呼ばれていました）です。私は、ニンカン時代のフィールドワークが縁で、名古屋で1年、豊川で4年養護学校で介護員をさせて頂いております。その間、母親にもなり、学校と家庭で子供漬けの毎日です。子供たちのユニークな感性、明るさ、前向きさ、柔軟性、伸びやかな心などから、多くの感動を頂く中、子供たちをそばで見守ることができる教師という仕事をしたいという夢を持ち、今年、明星大学の通信講座を受講しました。ニンカン通信で助成金のことを知り、申し込みさせて頂きました。いまだにニンカンの先生方や、卒業生の皆様に応援して頂けるということが、とても心強く、嬉しく思います。この度は、ありがとうございました。

9期 小出友祝

北九州市立大学大学院 社会システム研究科 地域コミュニティ専攻入学

こんにちは！お元気ですか？このたびは奨学助成いただき、ありがとうございます。先生方を始め、母校の皆さんに心より感謝しています。私は2010年4月北九州市立大学大学院社会システム研究科に入学しました。2005～2009年沖縄で生活しましたが、2006年からニューカレドニアへ渡った移民を支援する慈善団体の事務局をしております。その活動を通して沖縄、ニューカレドニアなど、オセアニアとよばれる地域の現状、そこに暮らす人々の多様な文化に関心を抱くようになり、受験に至りました。学内は若さで充満していますが、社会人を見かけることも稀ではなく、キャリアアップを目指す方、職業上より専門的な知識を必要としている方、人生を深めたい方など目的は様々で、お互いに励ましあいながらやっています。大学院での研究成果が少しでも社会に還元できるよう精進したいと思っています。

17期生 2011年1月30日(日)

同期会報告

26期生 2011年2月6日(日)

卒業して20年という節目と同時に、21番教室やベタニアへ訪れる最後のチャンスということで「ハタチの集い」と題し、総勢23名が集まりました。お忙しい中、大森先生、津村先生、山口先生にも来ていただきました。午前中は、21番教室で津村先生による実習「ワールドカフェ」を、午後はベタニアで昼食&懇親会をしました。ワールドカフェでは、5つのグループに分かれ、「ニンカンの卒業生だなと思った瞬間はどんな時？」「20年前に比べて成長したと思ったことは？」「（20年後）豊かな人生を送るために何を大切にするか？」をテーマにメンバーを変えながら語り合いました。その後の振り返りで「ニンカンが今の私の原点だ」との誰かの言葉に、殆どの人がうなずいていたのが印象的でした。20年という年月を一瞬のうちに



飛び越し、自然と本音で語り合えたことも、ニンカン生ならではの、幹事としてこの素晴らしい時を持たせた事を感謝し、次の再会が楽しみになりました。

（17期 宇野 由佳）

2011年2月6日。26期生52名。同伴大人2名、子供24名。先生6名。総勢84名が、懐かしの南短に集まりました。午前は食堂で食事&近況報告会。午後は思い出の21番教室でつんつんの実習。「ニンカンを卒業して、学んだなあ・成長したなあと思うことは何ですか？」についてグループで対話。その後、全員でヒューマンチェアー。最後に26期のうた「今、この瞬間（とき）～歩きはじめた君へ～」を大合唱。

卒業して11年弱。仕事、家事、子育て…それぞれの道を歩んでいましたが、ニンカン生らしい志の高さにはいい意味で影響を受け合っていたようでした。この日のねらい「よみがえれ！ニンカン魂！～今、ここから未来へ～」通り、しばし日常を忘れ（笑）ニンカン生時代にタイムスリップ。そしてニンカン魂を思い出し、それぞれの日常に持ち帰られたことと思います。26期のうたの通り「こんなに沢山の仲間がいる」と感じられ、みんなのキラキラした笑顔が心に残る、楽しい一日になりました。



（26期 武藤 由佳）

木村晴子先生を偲ぶ

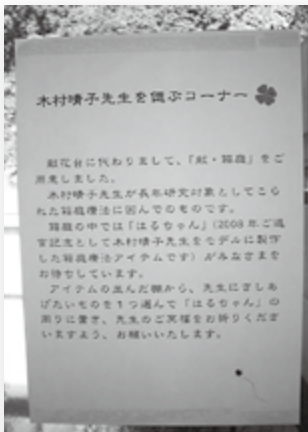
「あなた、こんなこと（臨床心理学）に全然興味なかったのになんでなの？」それが、卒業後10年近く経って、甲南大学への編入を思い立った私に向けられた木村先生からの最初の言葉でした。確かに私は、南短在学中には先生の授業を全く受けておらず、きちんと会話を交わしたのもその時が初めてでした。今思えば、興味がなかったのではなく、簡単に覗いて、その世界に引き込まれていく怖さから手が出せなかったのかもしれませんが。編入を決めたのも、臨床心理学を学びたい、臨床心理士になりたいといったはっきりとしたビジョンがあった訳ではありませんでした。しかし、そんな曖昧な気持ちの私を「まあ、そういう『時』が来ているのかもね。私は人関の卒業生が来てくれるのは大歓迎よ。待ってるわ。」という温かい言葉で受け容れて

くださり、私は神戸の地で臨床心理学と出会いました。

それは、木村先生との出会いでもありました。甲南大学や大学院の授業で、先生は体験学習の要素をたくさん取り入れ、人関での学びを大切にしておられました。未知の学問にどっぷり浸る毎日の中で、慣れ親しんだ体験学習に触れる機会は、私にとって大きな救いになりました。そして、“自分自身の体験やプロセスを丁寧に辿っていく”という人関で培ってきた『目線』は、自分が出会うクライアント（患者・来談者）さんと向き合う時、互いの守りになるのだということを実感できたことも私の支えになっています。

木村先生との出会いがなければ、今の私はいないでしょう。折りに触れ、叱咤激励してくださった師を失ったことは本当に本当に辛く、心細い思いでいっぱいですが、先生がいつも言われていた“信じて待つ”姿勢を忘れず、真摯な気持ちで心理士として歩んでいきたいと思います。

(15期 安藤 順子)



2010年12月12日(日) 甲南大学にて「偲ぶ会」があり、200名以上の方が参列されました。先生にちなんで「献箱庭」が設けられました。

多治見修道院・ワインフェスタ

皆さんにとっても、とても懐かしい多治見修道院…11月3日（文化の日）、2010年で7年目を迎えるワインフェスタのイベントへ行って参りました。

このイベントは、現在、私がかかわっている障害のある人達をサポートする法人の主催で、収益はほぼ法人内の授産所に通う知的に障害のある人達の自立を支えるお給料（一部は、（財）野鳥の会に寄付）となります。

また、このワインフェスタで販売される多治見修道院ワインは、授産所に通う人達が修道院の敷地の一画で、暑い夏も寒い冬も毎日毎日通い、一所懸命育て、収穫したブドウで作られています。

私が主にサポートさせていただいている人は、地域で暮らす障害がある方々で、今回のイベントも、重度の身体障害のある方と名古屋から同行、参加し、楽しい時間を共に



過ごしてきました。この仕事に出会い5年が経ちます。

先天的な障害の他に、年を重ねて思うように体が動かなくなったり、突然の事故や病いで障害を持つようになって、それを乗り越えて生きる姿を目のあたりにして、元氣や勇気をいただいています。人との関わりを通して試練や新しい価値観を実感すると共に、『お互い様とお陰様』の精神が自然に芽生えてくることに感謝している日々です。

6期 五藤（伊藤）亜美

ホーム・カミングデイ

2010年11月7日(日) No.21教室

ホーム・カミングデイ……土日花の仕事をしている私は、毎年、行けたら行こうなあという感じでいたので、そんなことではなかなか行けず、実はまともに参加したことがなかった次第です。しかも、昭和区いりなかに住んでいながらです！ そんな私ですから南山短大での開催が最後だから～、と参加を決め、途中から駆け付けました。

グラバア先生をはじめ、先生がたの思い出の秘話なども伺えて、心に残りました。人関の誕生や歴史云々……ただ、私がとても残念だったのは、我が五期生の参加がたった五人だったこと。う～ん、みんなあ、会いたかったよう～。

その後、ほどなくして開かれたニンカン・ネットサロンに参加したり、以前講師としてやらせていただいた、学生、職員さんむけのクリスマスリース講習会を、もう最後だからと声を掛けてくださってベタニアで出来まして、なんとか自分なりに不完全燃焼を食い止めた感です。来年からは四大で開催かな？

みんなあ、行こね～～

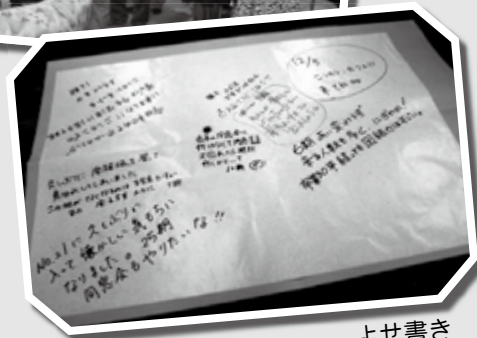
5期 内山 早智子



メモリアルコーナー



21番教室



よせ書き

ホームカミングDAYに参加して

去年(平成22年)の11月7日(日)に南山短期大学で、ホームカミングDAYがありました。今年度で短大が無くなるということもあり、担当の山口先生も参加されるということで、第1期(?)コミュニティで、集まって行く事にしました。(声かけしてくれたさくちゃんさっちゃんありがとう)

集まったのは6人。私は転勤族の主婦なので、卒業後2回目くらいの短大訪問。初のホームカミングDAY参加。ちょっとときどきしながら行ったら、まあ凄い人・人・人。「私をおいていかないで～」と皆の後をついていながら、色々な所を懐かしく回りました。

1番教室ではイベントや参加された先生方のお話がありました。21番教室には各卒論やアルバムなど今までの歴史が所狭しとあり、私たちコミュニティの研究をまとめた本もありました。ちゃんと布製のカバーまでしてあったが、誰が作ったか覚えてもないのに、6人会ってすぐ話題になったのは、付録として付けた皆の結婚順位。誰があたってるとか、あたってないとか、大盛り上がり。懐かしい写真を見ながら、皆変わってないねと31年前を振り返りながら、その頃の自分を思い出し、また明日からも頑張ろうと思うのでした。楽しい時間をありがとうございました。

そして運営された皆様、ホントご苦労様でした。

6期 本間(松井) 昭子



11期生

ニンカン・ネット 掲 示 板

◆ ニンカン・ネットHPについての アンケート協力をお願い ◆

2001年10月に創刊したニンカン・ネット通信ですが、予算の都合上今後の発行が難しくなっています。そのため情報発信はホームページへ一本化し、通信の発行は近々終了する予定です。(時期は未定)
つきましてはホームページの内容を、従来のものよりもわかりやすく・親しみのあるものにするべくリニューアルしたいと考えていますのでアンケートの回答をお願いします。

*回答方法

①FAXでご提出の方…

担当：5期 林 幸子 (052) 722-4875
(提出期限4/10まで)

②ホームページにてご回答の方…

ニンカン・ネットホームページ内の「アンケート」をクリックして、回答をしてください。
(期限 4/10まで)

皆さんのニーズにできるだけ応えた内容を目指していますので、多くの方のお返事をお待ちしています!!

◆ Thanks! ◆

挿絵は5期 榊原葉子さんの娘さん、先生の似顔絵は16期 三井由紀子さんにかいていただきました。また、編集・印刷は尾頭橋印刷所をお願いしました。

◆ スタッフ募集します ◆

ニンカン・ネットは、2001年10人程の卒業生によりスタートしましたが、現在は数名のスタッフで企画・運営しています。今後のさらなる活動充実のために、引き続きスタッフを募集します。

・定例会：毎月第3土曜日

午前11時～午後1時(8・12月は原則休み)

・場 所：E-mail：staff5@ninkan-net.jp
お尋ねください

・交 通 費：全額支給(愛知・岐阜・三重県内)

・活動内容：「ニンカン・ネット通信」作成発行、
ミニ講座運営、助成金管理

日時や場所の変更もありますので、事前にお問い合わせください。

◆ 寄付のお願い ◆

「ニンカン・ネット」は皆さまの寄付で運営されています。常時、寄付を受け付けています。

《振込先》

三菱東京UFJ銀行 八事支店 普通 1715892

ニンカン・ネット 代表者 伊藤雅子

*名前と期(学生番号)を必ずご記入下さい。

～ご寄付をいただいた方、ありがとうございました～

◆ 記事、イラスト募集します ◆

次号への投稿をお待ちしています。また、表紙イラストや挿絵等「何か表現してみたい!」と思われる方は是非お送りください。

担当：5期 林 幸子 FAX (052) 722-4875

E-mail：staff5@ninkan-net.jp



◆ 編集後記 ◆

ニンカン・ネットのスタッフも様々な事情を抱えています。それでも何とか、「第1回ニンカン読書会」、「ミニ講座」、「ニンカン・カフェ」など、新しい試みを企画し、開催することができました。ニンカン生の期を越えたつながりを感じることができ、嬉しく思いました。今回は今までのふりかえりではなくて、アンケートを同封しました。是非皆様の声をお聞かせください。お待ちしております。

(6期 織田 厚子)

◆ ニンカン・ネット 問い合わせ ◆

ホームページ：http://www.ninkan-net.jp

E-mail：staff5@ninkan-net.jp

FAX (052) 722-4875 (担当：5期 林 幸子)